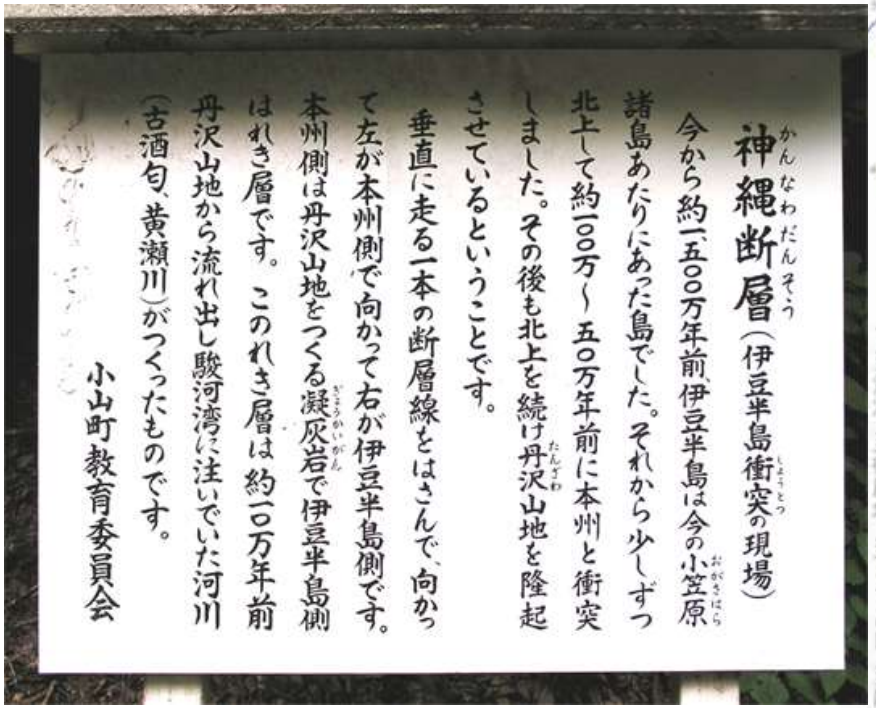
神縄断層(1)

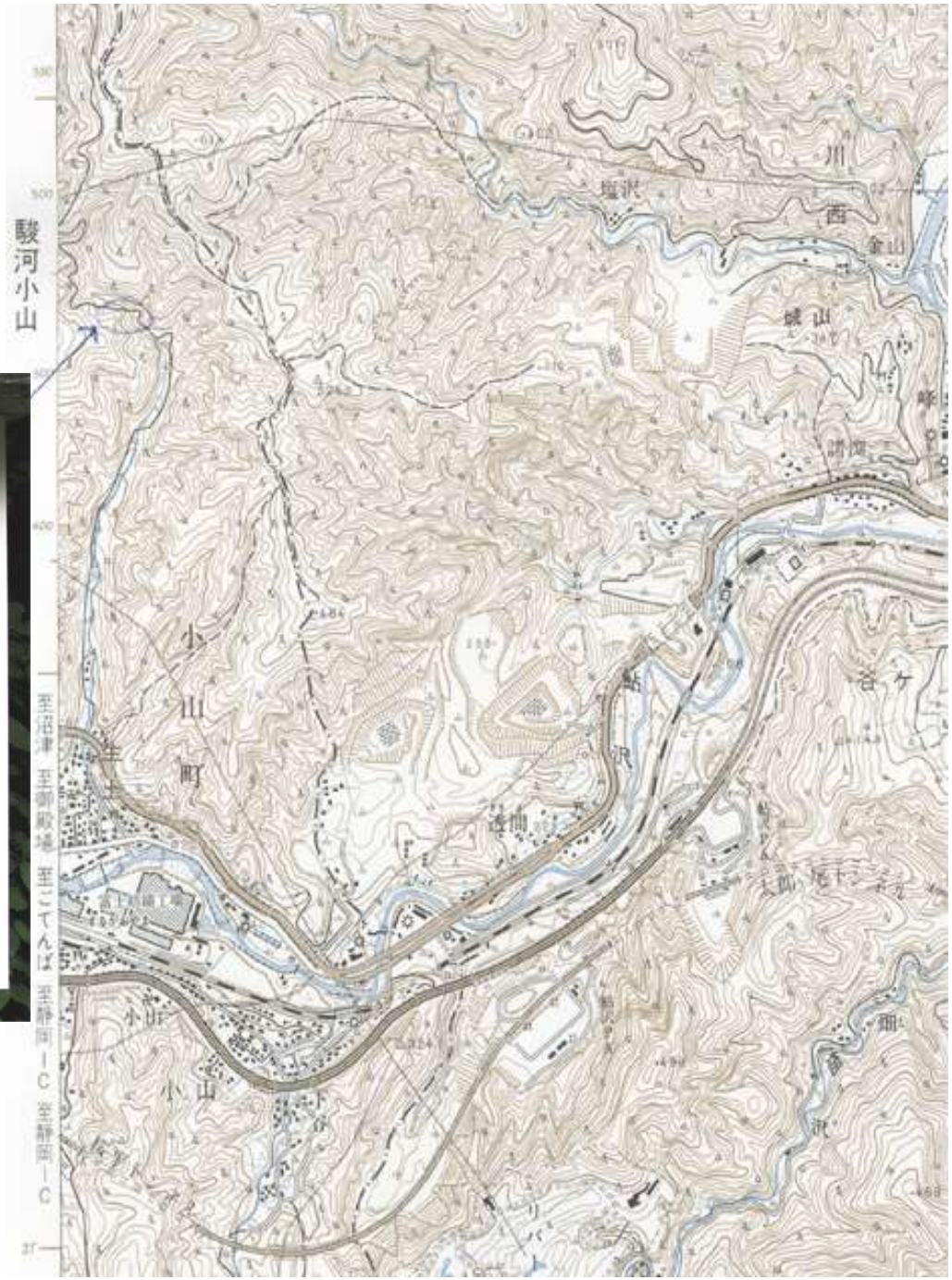


神縄断層（伊豆半島衝突の現場）

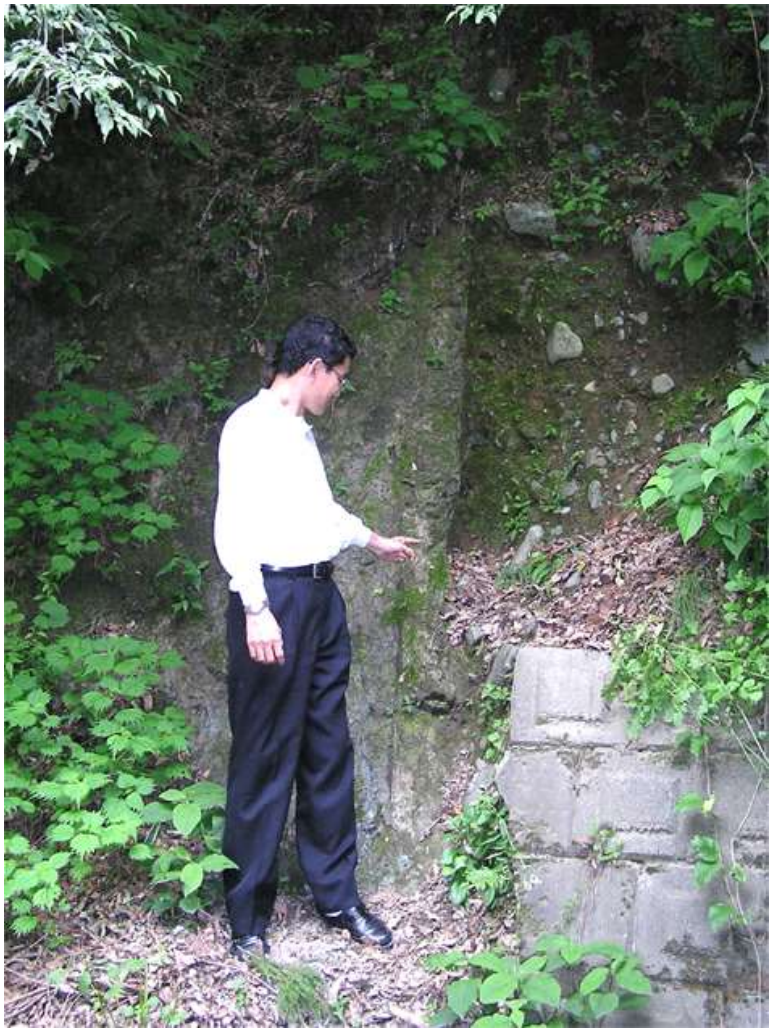
今から約一、五〇〇万年前、伊豆半島は今の小笠原諸島あたりにあった島でした。それから少しずつ北上して約一〇〇万～五〇万年前に本州と衝突しました。その後も北上を続け丹沢山地を隆起させているということです。

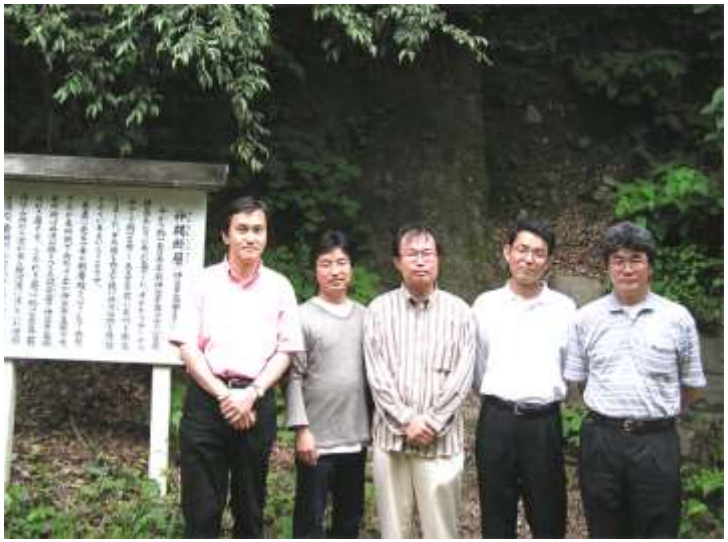
垂直に走る一本の断層線をはさんで、向かって左が本州側で向かって右が伊豆半島側です。本州側は丹沢山地をつくる凝灰岩で伊豆半島側はれき層です。このれき層は約一〇万年前丹沢山地から流れ出し駿河湾に注いでいた河川（古酒匂、黄瀬川）がつくったものです。

小山町教育委員会



神縄断層 (2)

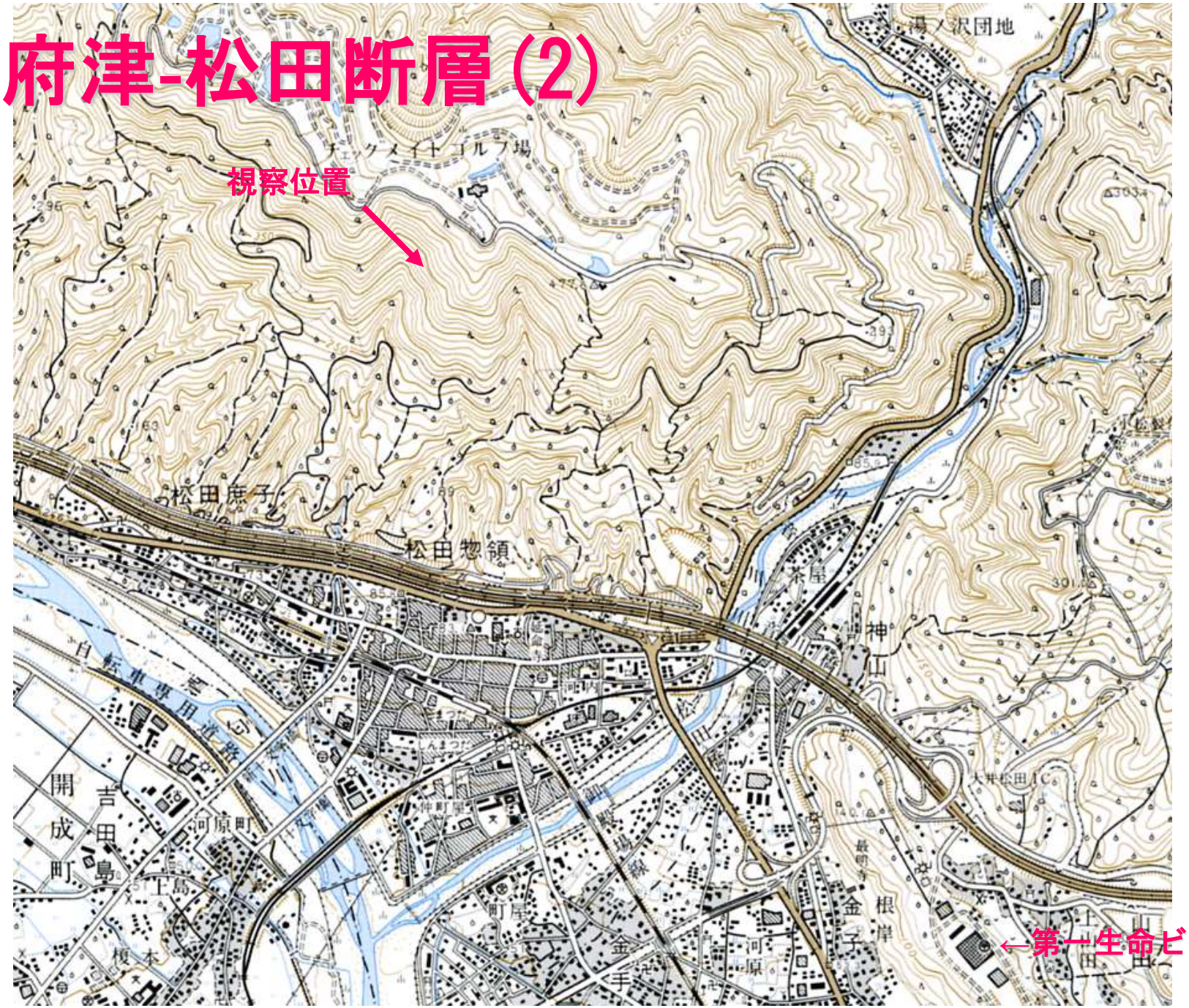




国府津-松田断層(1)

チェックメイトゴルフ場から見た国府津-松田断層

国府津-松田断層(2)


湯人沢団地
チェックメイトゴルフ場
視察位置
松田庶子
松田惣領
茶屋
神山
自転車専用道路
開成町
吉田島
河原町
王島
榎本
仲町屋
町屋
金手
河原
金子
根岸
大井松田IC
最明寺
←第一生命ビル

国府津-松田断層 (3)

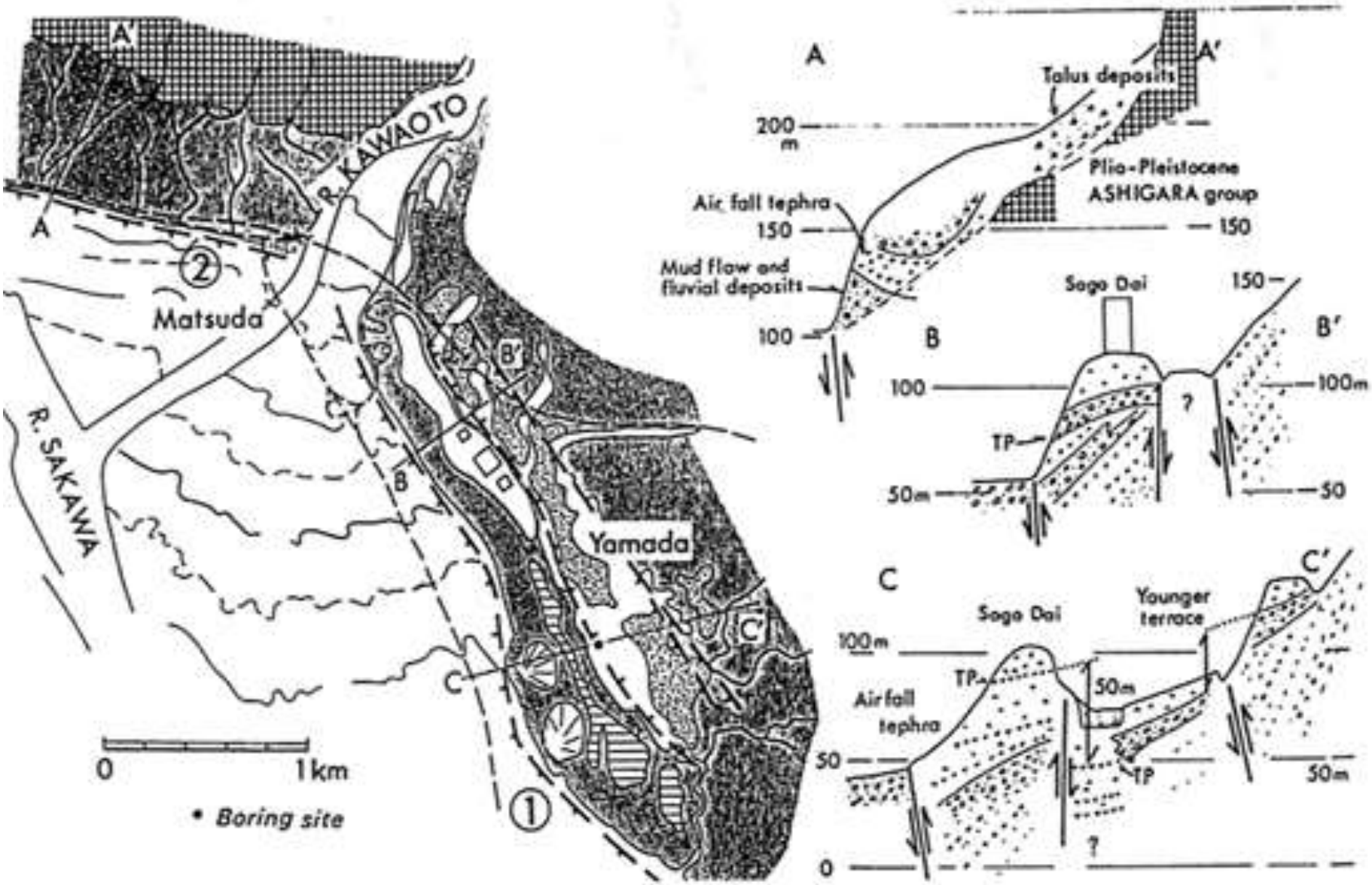


Fig. 2-5. Geomorphological map along the Kozu-Matsuda Fault and cross profiles (Yamazaki, ms).

国府津-松田断層 (4)

地震タイプ	大磯丘陵の地殻変動	足柄平野の地殻変動	再来周期
大正型	2m ↑	1~2m ↑	6~800 年
大磯型	5m− ↑	5m+ ↓	2~3000 年

モデル

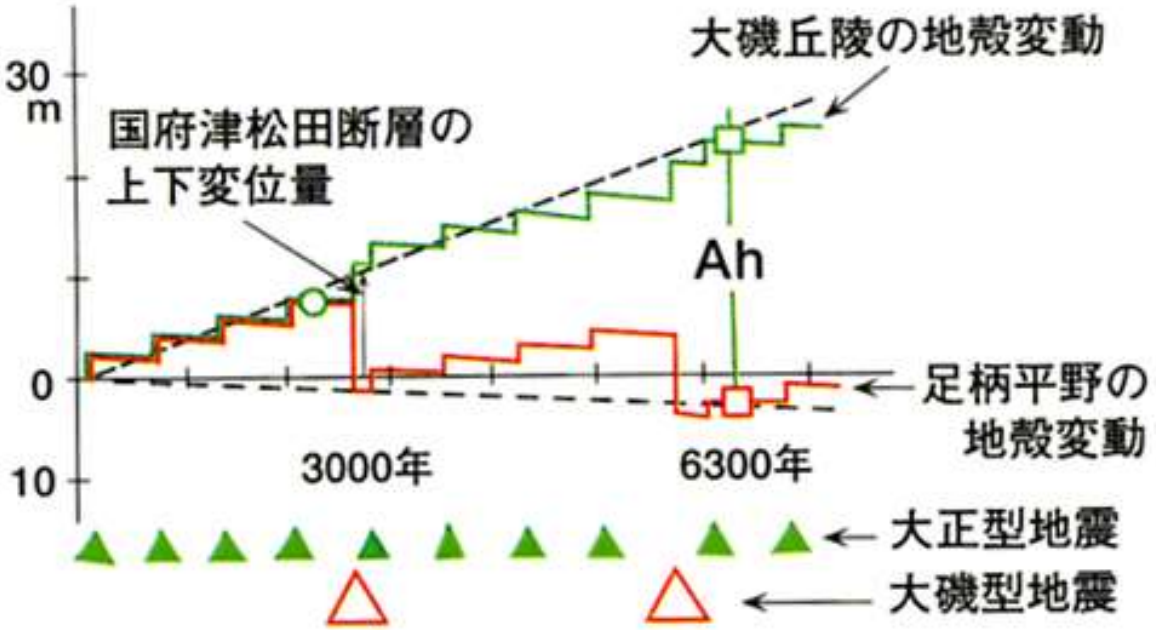
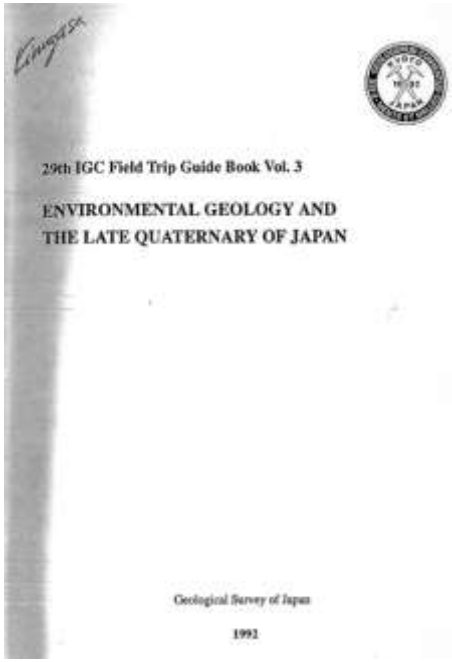
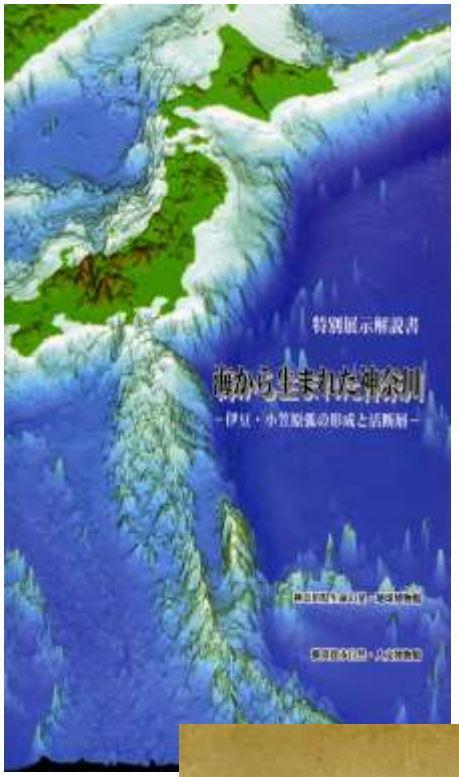
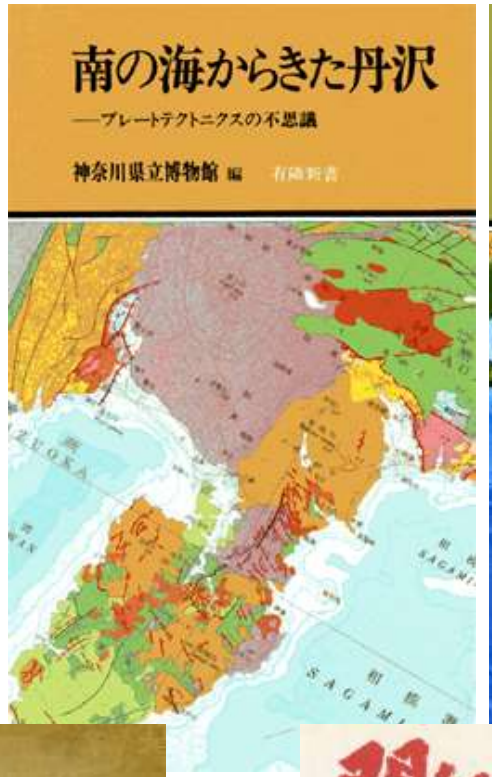


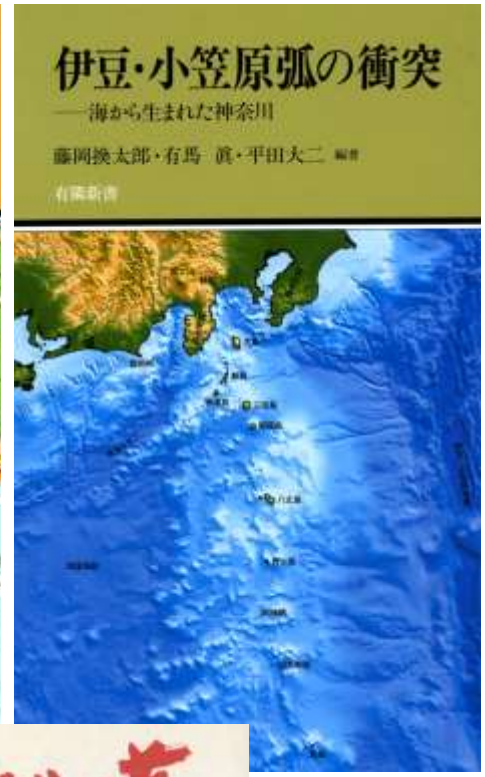
図7-29. 国府津・松田断層を挟んで大磯丘陵側と足柄平野側のそれぞれの沈降隆起の履歴図（山崎，1993 より改変）.

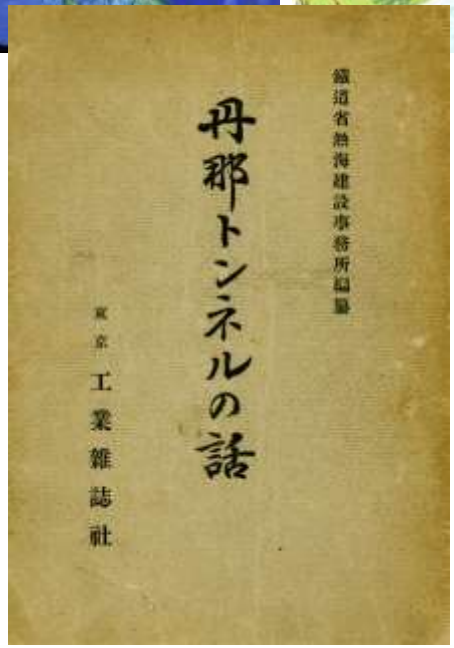
参考図書


29th IGC Field Trip Guide Book Vol. 3
ENVIRONMENTAL GEOLOGY AND
THE LATE QUATERNARY OF JAPAN
Geological Survey of Japan
1992


特別展示解説書
海から生まれた神奈川
－伊豆・小笠原弧の形成と活断層－


南の海からきた丹沢
――プレートテクトニクスの不思議
神奈川県立博物館 編
有隣新書


伊豆・小笠原弧の衝突
――海から生まれた神奈川
藤岡換太郎・有馬 眞・平田大二 編著
有隣新書


鐵道省熱海建設事務所編纂
丹那トンネルの話
東京 工業雑誌社

闇を裂く道
吉村 昭
文春文庫

闇を裂く道

吉村 昭

文春文庫

闇を裂く道 吉村昭 よ 1 19 文春文庫 480

ISBN4-16-716919-3 C0193 P480E 定価480円
（本体466円）

丹那トンネルは大正7(1918)年に着工されたが、完成までになんと16年もの歳月を要した。けわしい断層地帯を横切るために、土塊の崩落、凄まじい湧水などに阻まれ多くの人命を失い、環境を著しく損うという当初の予定をはるかに上まわる難工事となった。人間と土や水との熱く長い闘いを描いた力作長篇小説。　解説・谷田昌平

よ 1 19

文春文庫

本書の中から北伊豆地震に関する箇所（pp.310-329）を以下に転載させて頂きます.

あったが、しばしば大地が揺れ、時には不安になって戸外にとび出すことも多かった。その現象は、函南村を中心に北は箱根、南は伊豆半島の北部、東は熱海町、西は沼津西方のあたりまでの地域で起っていた。

初震は、二月十四日で、以後、連日のように地震が感じられ、七月に入ってようやくおさまったが、その間、地震計に一昼夜一八〇余回記録されたこともあり、総計四、〇〇〇回も地震計の針が振れた。この中で、やや強く感じられた地震は一三〇回であった。関東大震災の記憶がある人々はおびえ、県庁では警戒態勢をとっていた。

その後、地震は絶え、人々の不安は消えた。しかし、十一月十一日から再び弱震が連続するようになり、十六日頃から回数が急増した。二十五日には午後三時五分から一時間にわたって地震がつづき、かなり強く揺れることもあって戸外に飛び出す人もいた。

この日、沼津測候所長が静岡県庁におもむき、白根竹介知事、加賀谷朝蔵内務部長、中村恒三郎警察部長らと会い、群発地震の震源地が函南村丹那盆地附近であると報告し、この南方の韮山村と網代村に仮設の測候所を急いで設けると告げ、退出した。警察部では、各警察署に地震にそなえて対策を立てるよう指令した。

翌二十六日午前四時二分、突然、激烈な地震が発生した。それは、静岡市でも強く感じられたので、中村警察部長は、ただちに警察電話で三島警察署にその状況をたずねると、

「当署管内は烈震にして、警察署は半壊し、三島町は全滅の如く、各所に火災起る」

という報告があり、沼津署でも同じであった。その他の警察署には電話が通じず、被害がいちじるしいことを知った。

これは、北伊豆地震と称された烈震で、丹那盆地を中心に北部の箱根から伊豆半島北部の浮橋

まで一直線に走る大断層線を起震線に発生したのである。各測候所で観測した震度は、三島、沼津六、横浜、横須賀五、東京、布良、熊谷、甲府、飯田、前橋四、名古屋、長野、宇都宮、浜松、高田、柿岡三その他であった。

直下型地震で、断層線にそった地域の被害は甚大だった。函南村では死者三七、負傷者一九五、家屋全壊三九四、半壊四二七、火災による焼失戸数一〇。隣接の韮山村でも死者七五、負傷者一〇五、全壊五一七、半壊三三五、焼失三におよび、北狩野村二三名、修善寺町二二名、川西村一六名の死者を出すなど悲惨な状況だった。

被害は一市六町三六カ村に及び、死者二五五、負傷者七四三、全壊二、〇七三、半壊四、一〇四、焼失七四に達した。

函南村の被害は甚だしかった。道路は裂け崖はくずれ、家屋は倒れて、水頭から飲料水をひく鉄管は数個所で切断されていた。

丹那盆地の中央には、南北に走る断層の線がはっきりと露出していた。断層線の東側が隆起し、逆に西側は陥没した。さらに東側の地面は北の方向に、西側は南へ動いていて、その食いちがいが二メートル六〇センチになっている所もあった。また、落差ができたために、その上に立っていた家屋は倒れた。

附近の山間部では、一七メートルも陥没した個所もあり、藪と林がそのまま地中に落ちこんでいた。それとは逆に三・九メートル隆起した地もあり、大地には深い亀裂が無数に走っていた。

函南村の負傷者は小学校などに運ばれ、日本赤十字社の静岡県と東京各支部の救護班が治療にあたった。